美浜町議会　総務産業・文教厚生常任委員会　合同行政視察　　報告書
（妙高市：市内スポーツ施設を活用した合宿誘致を推進する取り組みについて）
（信濃町：信濃町立信濃小中学校）

氏　名　　都筑　新悟

（妙高市）　妙高市にある自衛隊の大きなメリットを知ることができました。北陸新幹線の開通により東京から約2時間とアクセスの良さがあり、アクセスの良さというのはやはり重要であると感じました。
中国電力の合宿を地域の方たちの手により自前で作り始めた話を聞き、やはり地元住民の理解と協力なくして成功はないと思いました。
大学と企業の繋がり、キーマンとなりうる人間の必要性、人が人を呼び集まってくるのだと改めて感じました。
妙高市は環境、口コミの上手さ、地元の宿屋さんのお客様対応など合宿の立地条件の良さによって集客に成功していると感じました。また、田舎ゆえの良さ（信号機がない）を上手に利用して大学の陸上部などの練習しやすい環境を整えているので感心させられました。

（信濃町）美浜町執行部の近藤さんも事前に小中一貫に関する本を購読していて、しっかりと学校再編に向けて取り組まれていて感心しました。
信濃町は小中一貫校にしたことにより、いじめが非常に少なく、不登校は依然としてあるものの人間関係による不登校などではなく家庭の事情による不登校が多いと聞き、小中一貫校にする事によって先生方が生徒の面倒を見るのではなく、大きな子が小さな子を導いてくれていると聞き、小中一貫教育の良さを感じるとともに、元気はつらつと挨拶をしてくれる子供たちを目の当たりにし心温まりました。また、特別支援学級の子や学校へ来られない児童にもGoogleミート（リモート）によって行われる授業が取り入れられていて、教育対策が進んでいる印象を受けました。
信濃町の博物館や野尻湖などへ児童がどんどん外へと、町のスクールバスを使い課外授業がなされていると聞き、やはり勉強だけではなく学校本来の子供たちが楽しめる状況を作ってあげていて自然を感じながらの良い教育がなされていると感じました。
中学生の女子の児童の制服がブレザー制服を取り入れていて、ここら辺の中学校には無いおしゃれさを感じ、美浜町も取り入れたら良いのになあと個人的に感じました。
信濃町でもやはり少子化は進んでおり、どの地域でも少子化問題はあるのだと感じながら、その中でもいろいろと取り組んでいる教育現場を直に見ることができてよい体験となりました。
（最後に）議会事務局に感謝します。しっかりとした段取りや視察先との打ち合わせにより、良い視察研修が出来ました。ありがとうございました。

美浜町議会　総務産業･文教厚生常任委員会　合同行政視察　　報告書
（妙高市:市内スポーツ施設を活用した合宿誘致を推進する取り組みについて）
（信濃町:信濃町立信濃小中学校）

氏　名　　茶谷　佳宏

１日目妙高市の合宿の郷づくり事業で、行政と事業者である商工会、旅館連合会の役割分担をして、それぞれが「何ができ、何をするのか。」を明確にしていることが分かりました。特に、誘致活動については、事業者の果たす役割が大きく、行政ではなかなかできないことをどのようにしていくのかがカギになると思いました。誘致に向けては、キーとなる人とつながり、美浜のよさ（自然環境・練習環境・宿泊環境）をアピールして理解してもらい、キーマンに大会等で活躍してもらうことが最も有効だと感じました。

以上のことから、合宿誘致に関しては事業者や委託業者の人脈をフルに活用して、キーマンと太いパイプを築くことが必要です。

次に２日目信濃町立信濃小中学校を見学して、先ず内装に木材がふんだんに使われていて、温かみを感じました。学校建設にあたっては、各学年３クラスの教室と体育館１つを含む建設費が約２２億６千万円で、補助金が約１０億４千万円、起債（過疎債）が約６億４千万円でした。学校債が無かったのか確認したが後日返答となった。建設費が約２２億円とこれまでの学校とは規模も内容も違うが、本町での建設についても他の学校の建設費を参考にするだけではなく、内容も慎重に検討する必要があると感じました。

また、建設までの経過報告では、PTA 連合会から「小学校統合は、遅滞なく、進行する」よう要望書が出されたことや建設場所が既存の中学校敷地であることなどから、異議を唱える人はなく、どのような学校にするのかという議論にとどまった。それでも、住民・保護者への説明会・懇談会が計４７回行われています。このことから本町の説明会は、まだまだ少ないと感じました。建設場所の理解を得るためにもより一層丁寧に説明する必要があります。

開校以来、信濃町では１０年余りで児童生徒数が約３分の２に減少してきています。移住してきた子どももいると説明がありましたが、減少を遅らすには至っていません。

本町での学校再編計画は、ようやく建設場所を示す段階です。子ども、保護者、教師などにアンケートを実施して、生の声を聞いていく必要があります。将来の子ども達のためにも、十分に議論を尽くし、地域の分断、しこりをできるだけ残さないようにしていかなければなりません。

２日間の視察で、得た情報を共有し、議論を重ねる必要性を強く感じています。お疲れ様でした。

美浜町議会　総務産業・文教厚生常任委員会　合同行政視察　　報告書
（妙高市：市内スポーツ施設を活用した合宿誘致を推進する取り組みについて）
（信濃町：信濃町立信濃小中学校）

氏　名　　大嵜　暁美

◆妙高市：市内スポーツ施設を活用した合宿誘致を推進する取り組みについて

合宿の郷づくり事業は、行政と商工会や旅館連合会などの事業者とが、しっかりとした体制を作り役割分担を明確にして推進していました。

合宿の主な利用団体は、高校、大学、実業団で、「妙高市スポーツ等合宿の郷づくり推進条例」の合宿者への施設の利用料への減免制度により、「合宿の郷　妙高」の認知度が上がったとのことでした。

合宿誘致については、旅行代理店や大学へ、パンフレットやチラシの配布を行ったそうです。また、県道を走るランナーの安全を守るため、路面標識を 48 か所も設置したそうです。

妙高市は、合宿を通して、青山学院大学との連携協定を締結しています。中学生へのスポーツ指導やコーチの育成、妙高市のロゴマークを付けたユニフォームの着用などです。

視察では、子どもへの陸上教室や市民への駅伝結果報告会など、連携事業の様子を紹介していただきました。

座学の後は、妙高高原スポーツ公園と妙高高原体育館を見せていただきました。
スポーツ公園の陸上競技場ではスーパーX という資材がトラック走路に使用されており、最近修理した費用を伺い、相当高額のものであることがわかりました。野球場もありました。

その陸上競技場の横に妙高高原体育館はあり、1 階は温泉を利用したプール、2 階がバスケットボール等のアリーナになっていました。温泉を利用した足湯も外にありました。

美浜町も、まずは合宿誘致のパンフレットやPRに力を入れていくこと、妙高市のように一団体から多団体に利用がひろがるように、「条例」等で推進体制や合宿者が優待できるような規定を設けるなどを検討することが早急に望まれると思いました。

◆信濃町：信濃町立信濃小中学校について

信濃小中学校では、学校の概要や現状をお聞きし、学校内を見学させていただきました。
児童数の減少、施設の老朽化から、望ましい教育環境として、5 つの小学校と 1 つの中学校を小中一貫校（現在は義務教育学校）に統合していったそうです。
開校に向けて、小学校適正配置検討委員会の設置、懇談会の開催、教育環境検討委員会の設置などののち、小中一貫校の建設が決まったそうです。その後は、「学校づくり委員会」を設置し部会に分かれて、課題に対して解決策を検討したそうです。
お話を聞いた部屋は、「地域交流ホール」という部屋で、吹き抜けになっていて開放的な雰囲気の部屋でした。また、子どもと先生の交流や授業の準備のためのティーチャーズステーションや体育館までの通路（廊下）をスポーツストリートなど、普通の学校にはない部屋等がありました。新設した体育館には、舞台の裏が音楽室になる仕掛けもありました。鉄筋コンクリートの校舎でしたが、中は木材がふんだんに使用されており、温かい雰囲気でし

た。
通学は、徒歩のほか、民間のバス会社が運営している路線バス、スクールバス(3 台)、スクールタクシーを利用していました。
教育課程は、初等と 5 年生からを高等に分け、5 年生からは、完全教科担任制をとっているそうです。
学校へ入学を希望し移住も増えているそうですが、やはり児童生徒数は減少しているそうです。また再編により空いた学校のうち、2 校はまだその後の利用がきまっていないとのことでした。
美浜町も、小中一貫校開校に向け、学校づくり委員会の設立をし、問題点を洗い出し、解決策を考えるように、取り掛かる必要があると思いました。

美浜町議会　総務産業・文教厚生常任委員会　合同行政視察　　報告書
（妙高市：市内スポーツ施設を活用した合宿誘致を推進する取り組みについて）
（信濃町：信濃町立信濃小中学校）

氏　名　　丸田　博雅

第1日目　妙高市は市・町・村の3つが平成17年4月1日に合併、現在に至っている。人口は合併当時 37,831 人が、現在 29,868 人に。人口減少に伴って少子高齢化が進んでいる。観光資源（温泉・スキー場等）の経済効果は、約 2 億7千万円。
今後の市の活性化をする為、多くの課題に取り組んでいるとの事。青山学院大学との連携は「文化・教育・学術の発展」「人材育成」「地域の活性化」「スポーツ教室などによるスポーツ・健康増進」

第2日目　信濃町は人口 7,728 人。妙高など北信五岳に囲まれた高原盆地帯。小中一貫校の経過については、5小学校、1中学校の施設の老朽化、耐震性確保、そして児童生徒数の減少（S60 年 1,607 名が、令和5年 421 名、今後5年先（令和 10 年度）312 名）。平成24年4月に小中一貫校を開校。
ここに至るまで多くの委員会が回数を重ねた。
教育課程は、1年～4年が初等部、5年～9年が高等部、それぞれの目標を掲げ、学びの充実を図っている。

美浜町議会　総務産業･文教厚生常任委員会　合同行政視察　　報告書
（妙高市:市内スポーツ施設を活用した合宿誘致を推進する取り組みについて）
（信濃町:信濃町立信濃小中学校）

氏　名　　橋場　友昭

令和5年11月14日15日と新潟県妙高市と長野県信濃町に美浜町常任委員会合同視察に行ってきました。
妙高市の天候は、雨が降ったり止んだりでした。気温も寒く温暖な知多半島とは違うと感じました。
議長さんはじめ多くの職員の皆様に出迎えていただき妙高市の説明がありました。
一市一町一村の合併が平成17年に行われできた妙高市とのことでした。
人口の減少はどこの地域も同じく人口減少への挑戦をし、まちづくり重点施策を掲げ取り組みをしているとの説明がありました。気になったのは、合宿の郷づくり事業です。行政も入りますが、商工会、温泉郷旅館連合会が中心となり行うとの事でした。各大会に行き、営業活動や大学・実業団へのあいさつやダイレクトメール、市内の公共施設の予約の調整等行うとの事。
多く高校や大学・実業団の合宿を受け入れて一定の合宿者を確保できているとのことでした。
議会では条例で合宿者減免制度を規定して市民と同じ料金で使用できるようにしているとのことでした。県道にはランナー注意喚起表示を設置して車両運転手に注意喚起をしているとのことでした。青山学院大学とは協定書の締結を結び連携し毎年合宿を行うそうです。
続いて施設の説明がありました。陸上競技場は、公認ではなく練習用の施設でしたが、タータンがトラックと跳躍のところに敷かれていました。練習の多い日には300人程度利用するとのことでした。体育館はトレーニングプールやジャグジーもあり温泉トレーニングとのことでした。アリーナはとても広く感じました。天井が高く開放感がありました。
多くの有名選手のサイン等もあり信頼して使われている施設だと感じました。

2日目は、信濃町役場庁舎と信濃小中学校に行きました。庁舎では、議長さんはじめ職員のみなさんで迎えていただきました。議場に入れていただき説明をしていただきました。議員は12名との説明があり議場のつくりもその時々に変えているようでした。
続いて信濃小中学校に行き説明がありました。施設一体型小中一貫教育・義務教育学校の信濃町小中学校は、人口約 7700 人の町で、ピーク時の児童生徒数は約 1000 人に減っているそうです。こちらも人口減少は、課題でした。5校の小学校と1校の中学校が合併してできた学校です。開校までに 9 年以上の月日をかけ年に何度もの説明会や懇談会研修などを開かれて、中学校の敷地に新たに一体型の校舎を作り魅力ある学校になっていると感じました。また施設は、各所に工夫がされており、使

いやすい環境、過ごしやすい環境に感じました。
9 年間のカリキュラムは 4 年生までは初等部 5 年生から 9 年生までを高等部に分けて行う事で、つながりと、つなぎ目の充実を目指し行うそうです。
隣には、給食センターもあり温かい給食が食べられるのもいいなと感じました。
以上 2 日間の感想です。各市町の方々から丁寧な説明を受け素晴らしい施設の拝見ができ今後の美浜町の参考になると感じました。

美浜町議会　総務産業・文教厚生常任委員会　合同行政視察　　報告書
（妙高市：市内スポーツ施設を活用した合宿誘致を推進する取り組みについて）
（信濃町：信濃町立信濃小中学校）

氏　名　　野田　謙弥

「山と湖の小さな町の大きな挑戦」　＝信濃町の小中一貫教育の取り組み＝

視察を終えた帰りのバスの中で、私は信濃小中学校設立の関係者の大変な労苦を思い、なんとも言えない複雑な気持ちになり、目頭を熱くした。そして、小中一貫校を起爆剤にして、魅力ある学びの場を創出し、地域に開かれた学校づくりを推進する志をますます強くした。特に次の3点について、参考になった。

1．信濃町に誇りをもち、次代を担う人材の育成
人口減少による少子化と校舎等の維持管理費の増大に備えるための単なる学校統廃合ではなく、上記の目標を達成するため、既存のスタイルを踏襲しない学校づくり、町にたった一つの学校をつくるというぶれない信念をもって、次世代型教育（小中一貫カリキュラム）にチャレンジしている。

2．学校を支える地域の教育力
スタートは、地域講師によるクラブ活動から。ふるさと学習、異学年交流グループの学校行事への参加等、地域の力を活用することで、地域とともに歩む学校、地域を大事にする子どもたちを育んでいる。地域を学ぶキャリア教育の実践を通して、学校・保護者・地域との協働体制をより堅固なものにしている。

3．コミュニティ・スクールとしての学校づくり
学校運営協議会を設置して、校務支援システムの導入を構想している。地域全体で子どもたちの学びについての情報が共有できるよう、学校の教育活動や子どもに関する地域の行事の情報などをホームページ等で発信している。また、回覧板の活用、地域会合での広報活動等、情報提供システムの構築に努めている。

視察を終えて、次の3点が今後の本町の課題だと感じた。
1．児童生徒の安心安全な登下校。（信濃町は大部分がスクールバスと路線バス）
2．新校舎の建設。（コスパと児童生徒の成長のために絶対必要な項目との関係）
3．小中の文化の壁。（小中一貫校として、教師・保護者・地域の意識改革）

美浜町議会　総務産業・文教厚生常任委員会　合同行政視察　　報告書
（妙高市：市内スポーツ施設を活用した合宿誘致を推進する取り組みについて）
（信濃町：信濃町立信濃小中学校）

氏　名　　中須賀　敬

① 11 月 14 日（火）　妙高市スポーツ施設を活用した合宿誘致を推進する取り組み

妙高高原スポーツ公園グランドでは、施設改修の際、記録が出やすいと言われる、スーパーエックスと呼ばれるトラックに変更したり、施設の利用者の声を受けて、後付けでアイシングプールを作っていました。

また体育館でも、多くの利用者の要望により、トレーニングマシーンを導入されていました。結構な金額になり、議会の承認を得ることが大変だったそうです。その他のスポーツ施設も含めて、予算的な制約が多いなか、施設改修、施設更新を進めているそうで、その財源も含めて今後も教えて頂き、勉強していくべきと、強く感じました。

② 11 月 15 日（水）　信濃町立信濃小中学校

信濃町では、小中一貫校を作るにあたり、既存の中学校の敷地を利用したそうで、一部用地買収の必要が有ったが、造成工事も必要がなかったことによって、建設に係わる期間が約 2 年で、開校まで進んでいる事には、驚きました。また、住民の方々に丁寧な、そして細やかな情報の公開をする事により、大きな反対運動も無かったとの事でしたので、これからの進め方の参考にしていくべきであります。

また、新設の小中一貫校の教育に魅力を感じ、他市町からの入学希望者の見学もあり、学年費の無償化もプラスに働いたのではないか、との話もありました。美浜町では、給食費の全面的な無償化ができたらいいと思いました。

平成 28 年度の義務教育学校への移行については、設立当時は小中一貫校という制度しか無かったが、28 年度から、義務教育学校という制度が出来たので、信濃町では義務教育学校が、より相応しいという事で義務教育学校を選んだとの事でした。

瀬戸市と浜松市の視察と比較すると、美浜町にとっては信濃町小中学校が、より一層に参考になると感じました。この視察で見聞きした事を活かし、学校再編に向き合って行きます。

美浜町議会　総務産業・文教厚生常任委員会　合同行政視察　　報告書
（妙高市：市内スポーツ施設を活用した合宿誘致を推進する取り組みについて）
（信濃町：信濃町立信濃小中学校）

氏　名　　森川　元晴

（妙高市：市内スポーツ施設を活用した合宿誘致を推進する取り組みについて）

現地までのアクセスは決していいとは思えないし、便利がいい街並とも感じませんが、「合宿の郷　妙高」がなぜ多くのアスリート、各強豪団体がこの地で合宿、練習を好むのか、行政、地域の努力、誘致活動等はもちろんの事、きっかけとして、国の補助金やキーマンとなる人物の存在は大きいと思います。またスポーツ施設の充実、宿泊を伴う地域施設の環境も素晴らしいと感じます。ただ言える事は、ロード練習に伴う駅伝やクロスカントリー等の競技は最適でありますが、他の種目競技の利用は限られた期間と感じます。夏に家族で観光やキャンプに行きたくなる場所ですが、私はやはり「山」より「海」のほうが好きです。視察の感想としては、大自然の中、静かで空気が美味く、何も無い場所でスポーツや医療施設、宿泊施設が最低限充実した場所がスポーツや文化合宿には適しているのかなと、今回の視察で感じました。ただ結論として、地域環境整備は今後も大変必要でありますが、総合的には美浜町のほうが合宿等には適していると感じます。

（信濃町：信濃町立信濃小中学校）

誰もが思うところは自分の住む地域から学校、ましてや母校が無くなる事は大変寂しさを感じるところでありますが、少子化に伴う行政側の判断は大変苦渋であることも理解できます。だからこそ地域住民や子どもを持つ親の寛大な理解が大変重要であり、その為に行政側は時間をかけてでも特に子どもを持つ親に対し行政側の実情を踏まえ丁寧な説明が必要であると今回の視察で感じました。

我が家は4世代が生活していますが、同じ学校で同じ校歌を唄えることは大変幸せであることも実感しました。

今、美浜町は教育委員会を中心に具体的な再編計画をたてる事に大変苦慮されていると思います。誰もが納得する計画は無いと感じますが、あくまで子どもが主役であります。将来を見据え子どもたちが安心して学べる環境を作ることが行政側の最低限の責務であり、今私ども議会はその報告を静かに待つことも大切で、決して混乱を起こすような言動は極力避けなければならないと、私は感じています。

美浜町議会　総務産業・文教厚生常任委員会　合同行政視察　　報告書
（妙高市：市内スポーツ施設を活用した合宿誘致を推進する取り組みについて）
（信濃町：信濃町立信濃小中学校）

氏　名　　廣澤　　毅

① 妙高市：市内スポーツ施設を活用した合宿誘致を推進する取り組みについて

妙高市では、各スポーツ施設や標高1，300m の準高地という立地を活かした、豊かな自然と最良のランニング環境を整え合宿誘致に力を入れていることが分かりました。

また、箱根駅伝等大きな大会に出場する大学との信頼関係を築くため、長い期間かかっていることも理解しました。

本町も合宿等で利用してもらうためには、実際に大会等に出向いて直接各大学と話し合い PR する必要があると感じました。

時間をかけてロビー活動を頑張ってやっていくことが大切です。

② 信濃町：信濃町立信濃小中学校

信濃町の小中学校の建物の外観は RC 構造でしたが、室内は信濃町の木材がふんだんに使用され、とても温かみのある教室で学ぶには快適な空間と感じました。

本町でも木材をふんだんに使用した教室で子どもたちに学ばせてあげたいと思います。

信濃町では、学校を統合するため調査及び検討会議を20回ほど開催しており、また住民との懇談会と説明会においては、併せて30数回開催しており住民の皆さんに理解していただいた後、学校の統合計画を進めていることが分かりました。

美浜町でも今から多くの懇談会・住民説明会を聞き理解していただけるように努力していかなければならないと考えます。

そして子供たちにとってより良い環境で学べる学校を作ることが大切だと思います。

美浜町議会　総務産業・文教厚生常任委員会　合同行政視察　　報告書
（妙高市：市内スポーツ施設を活用した合宿誘致を推進する取り組みについて）
（信濃町：信濃町立信濃小中学校）

氏　名　　荒井　勝彦

新潟県妙高市は、人口 3 万人程の市ではあるが、令和 5 年度の一般会計は 218 億 4 千万円と、美浜町と比べると約 2.7 倍程である。
スポーツ関連施設は充実しているが、天然芝の陸上競技場等は、豪雪地帯故に冬場の利用は見込めず、雪害による傷み等の補修費もかさむであろう。
高校生がバイクで侵入した陸上競技場のトラックの補修費用が、10m程で 600 万円程かかったと聞いたが、使用頻度の高いトラックのインコースも、既に張り替えたことがあるという。
本町の陸上競技場でもコースの張り替えは必要になるはずなので、健全な状態で維持していく努力が必要だと改めて思った。
「妙高で合宿」と書かれたパンフレットには、充実した施設が紹介されているが、それぞれの維持管理費を十分賄えるだけの収入が得られているのか、疑問が残るところであった。
もちろんスポーツ施設があることによる経済波及効果もあるであろうから、一概に比較はできないにしても、本町においても町民のみなさんが理解しやすい、丁寧な説明が不可欠だと思う。
今回の視察の目的とは違うかもしれないが、「妙高クラインガルテン」という施設が気になった。
1 年の 1/3 を雪に閉ざされる地域において整備されているこの施設が、どの程度の稼働率で、どの程度の経済効果があるのか知りたいところである。
本町では年間を通じて利用できるし、大都市圏からの交通アクセスも良く、遊休農地を活用するには有効な施設だと思う。

長野県信濃町の小中一貫校は、人口 7,000 人程の町としては豪華な造りであり、今後の児童生徒数の減少を考えると、将来増えてしまうであろう空き教室の活用も考えておかなければならない課題だと思う。
事前に提出させていただいた、校章・校歌の選定方法は、校章においてはそれぞれの校章の一部を合わせた複合的なデザインとしていた。
校歌においては旧信濃町中学校の校歌をそのまま流用しており、児童生徒にとってはなじみのある歌であるようだ。
これは統合する前も中学校は町内に 1 校だけであり、変える必要がなかったようだが、私としては新たな校歌であっても良かったのかと思う。
本町では 2 中学校があるので、全く新しい校歌が必要となるはずなので、今後歴史を積み重ねていく間にも、誇りと希望を持てる校歌を制定する必要があり、熟慮を要する課題だと思う。
学校を統合する諸問題には、それぞれの分科会のメンバーが議論をし、私事と考えて臨んだようで、小さな町ではあるが、自分たちの子どもたちが誇れる学校作りに邁進した姿が伺

えた。
本町においても、より多くの人の意見を取り入れて、他に類を見ない誇り高き美浜町の小中一貫校としていきたい。

美浜町議会　総務産業･文教厚生常任委員会　合同行政視察　　報告書
（妙高市:市内スポーツ施設を活用した合宿誘致を推進する取り組みについて）
（信濃町:信濃町立信濃小中学校）

氏　名　　大岩　靖

1　妙高市　市内スポーツ施設を活用した合宿誘致を推進する取り組みについて

妙高市がスポーツ施設を利用した取り組みを進めるに至り、地域（地形）の利点を活かし、かなり以前から市の方向性をはっきりと打ち出していると感じました。合宿誘致に関しては、行政（観光商工課）を中心に一丸となって取り組んでいると思いました。但し、これだけの施設を維持管理する（指定管理を含む）には、国に対する対応もしっかりとやっているように感じました。

2　信濃町　信濃町立信濃小中学校について

美浜町と比べ、３倍以上の面積があるが、そのうち森林面積が７割を占める信濃町ではあるが、美浜町以上に人口減少に対する危機感を感じ取った町民の多くが、学校再編計画に対する関心の高さに結び付き町一丸となって取り組んだ結果が、現在の一貫校になったと思われる。開校に至るにあたり、学校づくり委員会（カリキュラム部会・施設部会・地域参加部会・開校部会・放課後事業部会・通学対策部会）総勢 120 人以上、住民評議員委嘱等、住民の関心・意欲・態度に驚きました。また、そこに至るまでの保護者説明会、教育環境検討委員会等の取り組みを大いに参考させていただきます。

美浜町議会　総務産業・文教厚生常任委員会　合同行政視察　　報告書
（妙高市：市内スポーツ施設を活用した合宿誘致を推進する取り組みについて）
（信濃町：信濃町立信濃小中学校）

氏　名　　野田　増男

（妙高市：市内スポーツ施設を活用した合宿誘致を推進する取り組み）

合宿事業については行政、商工観光、生涯学習課、スポーツ振興係があり、先頭に立って行っているようで、また、事業者、商工会、温泉旅館連合会が中心となって活動しているのに感動しました。またここもコロナで合宿利用数が減少していたようだが、昨年 R4 年から少しずつ回復しているようで、さすが合宿の老舗。

また妙高市スポーツ合宿で、市内に合宿する合宿者が公共施設を利用した場合、使用料・利用料は市民料金と同額で利用できる合宿減免制度を規定しているが、これは美浜でもぜひ取り入れるべきだと思う。またロード練習の合宿者の安全を確保するため、車両運転手に対するランナー注意喚起の路面標示を県道に設置しているようで、それが48カ所あるそうです。我が美浜町でできるかな。

2022年に青山学院大学と協定書を締結し、ユニフォームに「妙高市」のロゴマークをつけて大会出場、箱根駅伝、全日本大学駅伝、出雲駅伝に出場している。

ここまでやれば、さすが「妙高」です。ガンバロ美浜。